

昨年の死者 11年ぶり減

2020年に死亡した人の数（外国人を含む）は、前年より9373人（0・7%）少ない138万4544人と、11年ぶりに減少に転じたことが22日、厚生労働省が発表した人口動態統計速報で明らかになった。新型コロナウイルスが流行したものの、肺炎による死者数が減ったことが影響したとみられる。一方、出生数は2・9%減の87万2683人と過去最少となった。

人口動態統計 肺炎が減少

「コロナ対策効果」指摘も

死者数は近年、高齢化の影響で増加傾向にあり、14～19年は平均して年間約2・2万人増えていたが、20年は09年以来の前年比減となった。

直近で公表されている20年1～9月の死因別の死者数を前年の同時期と比較すると、肺炎が1・2万人減となるなど、呼吸器や循環器による死者が大きく減少しており、全体の死者数を押し下げたとみられる。

日本病院会の相沢孝夫会長は

「新型コロナウイルス対策でマスクをつけ、手洗いを徹底するようになった。そのため肺炎につながるウイルスなどの感染を防ぐことができ、死者数の減少につながったのだろう」と話す。

出生数 過去最少

出生数（外国人も含む）は19年の速報値の89万8600人に続いて2年連続で90万人を下回り、少子化に歯止めがかかっていない。コロナ禍で出産を遅らせる動きも指摘され、21年は出生数がさらに減るとの懸念が強まっている。

（久永隆一）